

SPEAKER

# 交通安全を最高に面白く語る!

## 最強のスピーカーがここに集う!



稀代の目利き。  
交通安全をどんな視点で楽しむのか?

日本スマート  
ドライバー機構  
発起人/放送作家

### 小山薫堂

1964年6月23日熊本県天草市生まれ。「料理の鉄人」「カノッサの屈辱」等斬新なテレビ番組を数多く企画。初脚本となる映画「おくりびと」では第32回日本アカデミー賞最優秀脚本賞、第81回米アカデミー賞外国語英語部門賞獲得をはじめ、国内外で高い評価を受けた。執筆活動の他、下鴨茶寮主人、京都造形大学副学長を務める。くまモンの生みの親でもある。



「人がより良く生きるとは何か」を考える  
予防医学者。その軽快なトークで  
交通安全をどう切る?

予防医学研究者

### 石川善樹

1981年、広島県生まれ。東京大学医学部健康科学科卒業、ハーバード大学公衆衛生大学院修了後、自治医科大学で博士(医学)取得。「人がより良く生きるとは何か」をテーマとして、企業や大学と学際的的研究を行う。専門分野は、予防医学、行動科学、計算創造学など。



ネット界・ベンチャー界の雄は  
交通安全をどう考えるのか?

株式会社 CAMPFIRE  
代表取締役  
起業家

### 家入一真

1978年生まれ、福岡県出身。株式会社paperboy&co.(現GMOペパボ)を福岡で創業し、「ロリポップ」「カラーミーショップ」「ブクログ」「minne」などを創る。2008年にJASDAQ市場へ上場。退任後、クラウドファンディング「CAMPFIRE」を運営する株式会社CAMPFIREを創業、代表取締役就任。他にも「BASE」「PAYJP」を運営するBASE株式会社、数十社のスタートアップ投資・育成を行う株式会社partyfactory、スタートアップの再生を行う株式会社XIMERAなどの創業、現代の駆け込み寺シェアハウス「リハ部」の全国展開なども。インターネットが趣味であり居場所。Twitterのフォロワーは15万人を超える。



クルマが道の主役でなくなる?  
交通安全を暮らし人の視点で  
やさしく読み解く!

モビリティ  
ジャーナリスト

### 森口将之

1962年東京生まれ。移動や都市という視点から自動車や公共交通を取材し雑誌・インターネット・テレビ・ラジオなどで活動。日本カー・オブ・ザ・イヤー選考委員、グッドデザイン賞審査委員。著書に「これから始まる自動運転 社会はどうなる!?」など。



最先端の自動運転サービスを  
手がけるDeNAから見る  
新時代の交通安全とは!?

DeNA AM事業部長

### 中島宏

大学卒業後、経営コンサルティング会社へ入社。2004年12月DeNAへ入社。外部企業のIT戦略立案を担当後、広告営業部署のグループリーダーを経て、新規事業の統括を担当する社長室室長に就任。2009年4月執行役員に就任し、新規事業推進室長、HR本部長、マルチリージョンゲーム事業本部長を歴任。2015年6月よりオートモーティブ事業本部の本部長に就任し、DeNAのオートモーティブ事業全体を統括する。



市民の力で夕方の事故を  
減らす運動を推進!

日産自動車(株)  
グローバル技術渉外部

### 長谷川哲男

日産自動車に在籍しながら、市民の力で夕方の事故を減らすソーシャルデザインプロジェクト「おもいやりライト」を推進。その精力的なプロジェクトは如何に持続されてきたのか、知られざる背景とその可能性を語る。



科学的に予測して  
事故を未然に防ぐ!

国土交通省道路局  
環境安全課長

### 森山誠二

1962年、岡山県生まれ。東京大学工学部卒業、国土交通省入省。福岡国道事務所長、静岡県副知事などを経て、現職。このほか、交通計画、ITS、消費者行政などにも従事。



スマートドライバーに出会い  
人生が変わった男

福岡スマート  
ドライバー代表  
ツタワルドボク代表

### 片山英資

スマートドライバーに出会って人生が変わった男は土木エンジニアだった。一般社団法人「ツタワルドボク」を立ち上げ、国内外において土木技術及び土木技術者の重要性や魅力が伝わる活動を通じ、円滑かつ持続的な公共事業の推進に寄与することを目的として活動。さらには「福岡スマートドライバー」を発足し精力的に活動。自ら動き関心を集め渦巻きを作り出す。その愛と情熱はどこから来るのか。



パブリックスペースの  
スペシャリスト!

タクティカル  
アーバンリスト  
都市戦術家

### 泉山 暉威

社会に開かれた新しい公共空間活用マネジメントの研究者。タクティカルアーバンリズムなど、実践的かつローコストで迅速な都市改善手法に精通。主催するWEBマガジン「ソトノバ」を通じて次世代の公共空間活用情報を発信し続ける。

